平成11年春には3000m滑走路となり、これが完成しますと地方空港のなかでは大型空港となります。幸いにして空港内に於いては大きな事故はありませんでした。現在、最盛期には函館空港は17路線が運航しています。利用状況は平成９年241万人（年間）で夏季が多く、１～２月は１カ月で140千人ぐらいに減少しますので、冬の観光客誘致が必要かと思います。空港は空の玄関口である反面、騒音がつきもので環境対策にも取り組んでいます。

将来3000m滑走路になると何が変わるかということですが、現在の2500m滑走路でもジャンボジェット機の離着は行っていますが、燃料を満タンにして遠い海外まで飛立つのは無理ですが、それが可能になります。成田の4000m以外は全て3000m滑走路で函館空港は12番目の3000m滑走路となります。また、ターミナルビルは現在奥行がなく狭くて老朽化してきましたので改築される予定です。

最後に地域航空（コミューター）が運航され、まずは好調なすべり出しで推移しておりますが、搭乗率がダウンしますと廃止になる可能性もありますので、地域の人にぜひご利用してほしいと思います。

◎ 出 席 報 告

会員数	６６名	出席率	函館北	11月11日	77.78 %
出席	３５名		函館東	11月10日	84.21 %
欠席	３１名		函館	11月５日	89.81 %
他クラブ出席	１４名		函館五稜郭	11月６日	100.00 %
出席合計	４９名		函館亀田	11月９日	83.33 %
除外者	３名				

・テレフォンサービス（例会移動案内）電話23－2377番

次回・12月９日 プログラム	「歳末警戒と防犯」 北海道警察函館方面本部 警部　本田　哲己 氏

第2510地区 第11分区　1998～1999

The Weekly Report of Hakodate North R.C.

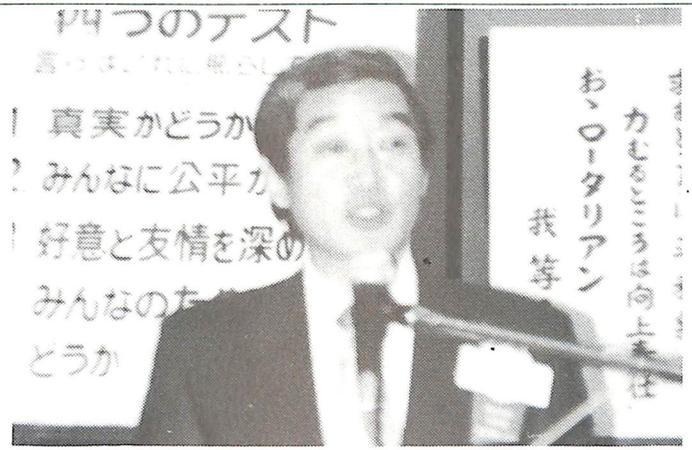
函館北ロータリークラブ会報

1998～99年度 国際ロータリーテーマ

ロータリーの夢を追い続けよう

FOLLOW YOUR ROTARY DREAM

新　博夫会長テーマ『明るく、楽しいロータリー』



11月25日卓話　高橋　幸雄 氏

《第1707回例会》 第 21 号　12月２日（水）

本日のプログラム

「 年 次 総 会 」

★会 長　新　博夫　　★幹 事　小笠原　孝

例会場：函館国際ホテル　〒040-0064 函館市大手町５－１０　TEL 23-5151
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30　事務所：函館市大手町5-10 ニチロビル3階 TEL 23-3870

1998～1999　〈第1706回例会〉第 20 号

11月25日の記録

◉司　会　新　博夫 会長　◉斉　唱　我等の生業

◉ゲ ス ト　運輸省東京航空局・函館空港長　高橋　幸雄 氏

◉ビジター　函館R.C. 相澤光雄君・中島敏幸君、函館東R.C. 明本修一君、函館五稜郭R.C. 小坂三男君・田村政志君

（会長報告に先立ち、寺西昭一郎会員ご逝去に伴う「黙禱」が行われた。）

◉会長報告　小池　凌一 副会長

○去る11月19日午前４時に寺西会員がご逝去されました。
1985年６月に入会され、各委員長を歴任されました。
告別式は12月４日午後６時30分田家町シティホールにて執り行うとのことです。ご冥福をお祈り致します。

○次週の例会は年次総会です。多数の会員のご出席をお願いします。

◉委員会報告

・ローターアクト委員会　野田　義成 副委員長

11月28日・29日開催のローターアクト年次大会及び北部ローターアクト20周年に多数参加申込ありがとうございます。場所は湯の川のホテル万惣です。28日は16時から登録開始、17時から式典、18時30分から懇親会、29日は10時から基調講演、11時から函館北部ローターアクト20周年式典を開催する予定です。

◉幹事報告　小笠原　孝 幹事

○当クラブ12月の例会は、２・９・16日は通常例会、23日は祝日休会、30日は24日に変更して開催致します。

◉親睦活動委員会　加藤　清郎 副委員長

ニコニコＢＯＸ投入報告

東田　会員……ゲストスピーカー高橋空港長を歓迎して。
中川　会員……ネクタイをほめられまして。
小笠原幹事・久保会員・二葉会員……ＢＯＸに協力。
佐々木会員……本日は好物の中華料理です。
田守　会員……明日のＮＴＴ文化講演会、ＪＣの星野理事長にお願いしています。
中野　会員……藤谷さんと山下さんが座っていましたので。

◉卓話　「航空の現状と函館空港の将来計画について」

運輸省東京航空局・函館空港長　高橋　幸雄 氏

本日は航空の現状と函館空港がいまどのような状態になっているのか、また将来計画についてはどうなのか、及び地域航空と呼ばれるコミューター航空について話したいと思います。まず、いま航空管制がどのような状況にあるかという事ですが、地球の表面はほとんど海で人間が住むことが可能な陸は20％にすぎず、その中に山あり砂漠ありで航空管制ができる場所は極めて限られた所となります。ところで最近の航空機はスピードがアップされ１分間で８マイル（約15km）の速さで進みます。航空機から見た地球表面はますます狭くなり、それに加えて地形上、経済上の問題等があって航空管制が中々難しい状況にあります。例えば横津岳にあるレーダーは電波の届く範囲は460km＝知床岬までで地球規模からは極めて近いところまでしかカバーできなく、また地球が丸いことから電波の届く距離にも限界があります。特に洋上を長時間飛行すると航空機自体が自分の位置を判断せざるを得ないので誤差がどうしても生じます。また安全間隔が必要なので洋上飛行では15分間（約240km）離れて飛行することが義務付けられており、これが過密の原因ともなっています。

そこでいま航空衛星を利用することが検討され、これが導入されれば問題は一気に解決され、今の15分間隔を５分に縮めることができ、航空機も洋上で飛行していても常に自分の位置を的確に把握できます。

次に函館空港ですが、昭和36年に1200m滑走路でオープンしましたが、